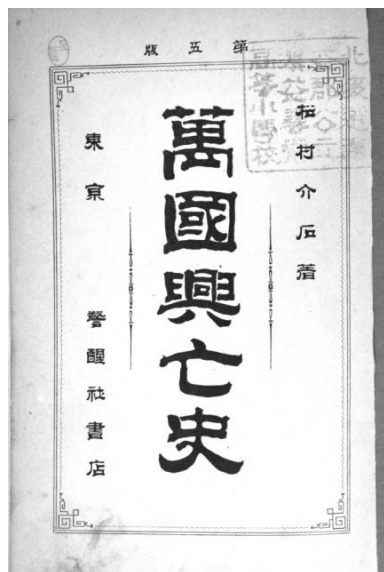


いしかり
博物誌
131



『万国興亡史』と明治の本

いま、いしかり砂丘の風資料館にいる私の手元に、松村介石著『万国興亡史』があります。この本は、明治35(1902)年に東京の警醒社書店から出版された本の第5版(明治37年刊)です。内容はヨーロッパの古代から中世にかけての国家の興亡を解説したもので、項目ごとに質問が設定されています。ちょうど現代の参考書のように、読んだ内容を確認できるようなっているわけです。著者の松村介石は明治時代の宗教

です。浜益尋常高等小学校は、明治34年に開校しました。開校当時の義務教育は尋常小学校4年までで、尋常高等小学校は義務ではありませんでしたが、やはり教育は重要だということで浜益尋常小学校の校舎新築に合わせて設置され、昭和22(1947)年に現在の学校制度が始まるまで存続しました。この本は、今は無き浜益尋常高等小学校の蔵書として貴重なものなのです。さて、この本は私の手元を離れ、



▲『万国興亡史』の扉に押されていた印

家、教育者でしたから、単なる歴史書ではなく読者が自習できるように配慮したのでしょう。この本を紹介したのは扉に「北海道公立浜益尋常高等小学校」の印が押されているから

市民図書館で保管されることになりました。実は市民図書館では新刊書だけでなく、明治時代や大正時代の本が一般の本と同じ、すぐ手に取れる棚に置かれているのです。例えば百科事典コーナーには明治時代の百科事典ともいえる『広文庫』(大正5年・全20冊)があります。辞典コーナーには明治時代の代表的な国語辞典『言海』を増補した『大言海』(昭和7年・全5巻)が並んでいます。明治は日本語が大きく変わった時代な

ので、明治の言葉は古語でもなく現代語とも違います。明治の言葉を理解するには明治の辞書が必要で、これらは大学図書館でもなかなか持っていないような本です。図書館を森に例えることがあります。本の中の森から明治や大正時代の本を探してみるのも面白いかもしれません。

(工藤義衛)

本の修理ボランティアをしている樋口博さんには、本の扉が外れ、バラバラになりかけていた『万国興亡史』を修理し、新しい命を与えていただきました。感謝申し上げます。

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。



工藤 義衛 Tomoe Kudo

専門分野は考古学と風俗史。石狩独特の文化を研究する一環で石狩の食を代表する「石狩鍋」の歴史やルーツについても調査を行う。